

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街篠ヶ瀬	ユニット名	Aユニット
所在地	浜松市東区篠ヶ瀬町345		
自己評価作成日	平成23年11月20日	評価結果市町村受理日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277102188&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成23年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔の見えるケア」を理念とし職員一同明るく元気が良いです。職員が元気ですので、中に居るご利用者様も大変元気です。3食手作りです。季節を感じていただけるよう、春の花見納涼祭 クリスマスなど、ボランティアを交え 家族と共に 歌 踊り ゲーム 食事をあいの里で、楽しんでもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

プランターや玄関先の花々が優しく咲き、職員も利用者も笑顔で訪問者を出迎えてくれる事業所である。毎朝、夕にリハビリ体操(早口言葉等)、嚥下体操、ラジオ体操を行っていて、その効果の表れか生き生きとした表情でユニットを歩き来する利用者の姿や、職員と一緒に楽しそうに歌う様子が見られた。利用者にとってその瞬間が大切な時間であると考え、日々の暮らしや行事の中で輝いている笑顔を写真に収めアルバムにまとめている。その写真からも利用者との関わりが充実している様子が受け止められた。また四季を感じてもらうことを大切にしており、季節の花見や行事を行い、積極的に外出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて毎日社是及び理念を唱和している。事業所の理念は「笑顔の見えるケア」	入居時には特に積極的な関わりを持ち、利用者の表情が和らぎ笑顔がでるよう支援している。また職員も笑顔でいることが、利用者の笑顔につながると思っている。年度スローガンを掲げ、本部の自己評価制度にて振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩途中にあいさつをしたり立ち話をしている。地域の祭り参加、運営推進会議、納涼祭への参加	事業所開催の秋祭りは自治会の協力を得て150名余りの参加がある。地域では大正琴、歌、踊り、練りの披露をしてくれ、事業所もヨーヨーや綿菓子を用意し、小さな子どもに喜ばれている。自治会の祭りや餅つきにも招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談にみえられた人への対応。 近所への挨拶時相談にのる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、今の状況を説明をし行的機関、町内会の方々の意見を聞く。	運営推進会議の中でクリスマス会や食事会の時間を設け、地域から感想をもらっている。地域の情報は直に広報を届けてもらっており、日頃から関わりを持つことで災害時の協力についてもお願いしやすくなっている。	認知症の理解をより深めてもらうために地域へ向けた情報の発信を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議又は区役所に行った時相談をし 連絡を受ける。	市の職員や包括は日程が合えば毎回参加してくれる。運営推進会議の案内や議事録を出向して渡しており、顔を合わせる機会があるので、相談しやすい関係になっている。行事と日程が重なる時は介護相談員にも参加して楽しんでもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場会議での研修、指導 掲示をしている。	外部研修に参加し、ユニットリーダー研修から職員へと落とし込んでいる。スピーチロックに関してははつい出してしまうこともあるので、朝礼時に管理者が喚起し意識を改めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて徹底、指導、注意確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社として公開セミナーをしている。過去成年後見人を活用されていた方もいた。研修にても、勉強		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、重要事項 契約書の説明はしており、その都度、確認納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、意見を聞き各機関に要望があれば伝えている。ケア計画書の説明時にも、聞いている。	秋祭りやクリスマス会への参加、運営推進会議へ持ち回りで出席してもらっている。職員は家族の不安を取り除くよう「安心して下さいね」と声をかけており、利用者の落ち着いた様子を見て安心した家族から感謝の手紙をもらうこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議に意見を出し合っている。又現場にても、その都度意見、提案を聞いている。	毎朝の申し送りや月に1回の会議では職員からの提案や意見が出ている。特にレクは利用者も職員も楽しめるものが次々と取り入れられている。年に1回個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。有給、希望休の確認。又施設長会議にても取得させる様連絡を受ける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修 外部研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加、近くの小規模多機能又は高専への見学、交流 情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント作成時には、必ずお会いして本人の状況確認をしお話を傾聴する。その後職員に伝達共有しご本人に対処する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、見学时ご説明納得頂く又傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時様子観察をキチンとし職員間で共有問題点があれば対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者は信頼関係があり、安心して生活してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族はいつ来ていただいても良い状態になっており、イベントへの積極的な参加をしていただき、常にお互いの気持ちを伝えあえる状態にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設を通じて行事を実施し、家族、知人に参加していただき、関係の継続に努めている。	どの家族も月に1回は訪問してくれる。その際時間が合えばおやつや食事を一緒にとることを勧めている。事業所が馴染みの家となっていて、出かけても「家に帰る」と言う利用者が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介のパイプ役になり、外出 アクティビティー時支えあってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者家族より紹介を頂いたり、おなくなりになった時にも連絡を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で希望など見つければ記録に残しておく。帰宅願望がある利用者に対しドライブ、散歩など積極的に気分転換努める。	不穏時はなじみの職員が対応することで落ち着いたり、一瞬でも利用者の笑顔を引き出せるよう努めたりと、思いを汲み取るようにしている。気づきや利用者の発した言葉を経過記録に記載し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートフェイスシートにキッチンと記載し確認、共有出来るようにしてある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々キッチンと経過記録を付け朝礼等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリングケア計画書等により共有し現状に即したサービスが出来るよう努めている。	計画作成担当者とケアマネがモニタリングとプラン作成を行っている。カンファレンスで出た職員の意見をとりまとめてプランに反映している。日々の変化にも迅速に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活管理表、経過記録の記入重要事項体調変化については情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ柔軟な支援をし時には、1対1にてケアを行ったり、買い物に付き合ったりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力、公園の利用 大型スーパーへの散歩、地元御宮への散歩等安全で豊かな生活ができるよう工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診希望の方は往診医にお願いし、受信希望の方はなじみの医院に受診している。	協力医は月2回の往診があり24時間対応のため、医療連携がスムーズであり利用者のほとんどが協力医に変更している。受診記録は個人ファイルに、薬の変化は連絡ノートに記載し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問はないが、時にはかかりつけ医を介しお願いする時もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常にかかりつけ医とは連絡指示を仰ぎかかりつけ医、総合病院、施設との連携は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスをし、状態の共有をし家族にむけても発信共有してもらい、ご利用者にとって良い方法を皆で探していく。	重度化した際は家族と今後について話し合っている。これまでに2件の看取り実績があり、経験が力量につながっている。研修も年1回行っていて、緊急連絡のロールプレイを行い、いざという時に落ち着いてできるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網、マニュアルの整備 研修にて共有 夜間は施設長は24時間対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもとの防災火災訓練地域との協力体制の強化を図っている。	「地域から事業所へ」「事業所から地域へ」、防災訓練の双方向参加は日程調整が難しく実現できていないが、地域へ呼びかけはしている。防災用具を各所に配置し、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務に基いたプライバシーの保護や人格の尊重、ことば使いに注意をし、朝礼では確認対応	利用者のもとへ行き、目線を合わせて耳元で話をしている職員の姿に配慮が感じられた。また丁寧な言葉遣いや声の大きさへの気遣いもある。馴れ合いの関係とならないよう「お客さま」であることを意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、思いが伝わるように傾聴し自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩 アクティビティー入浴出来る限り意に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容、化粧洋服などご本人で出来る事はしてもらい支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物時動向していただいたり、好みのものお聞きしたりして、楽しみを増やしている。	野菜を中心としたメニューでいろんな味が楽しめる内容になっている。「いただきます」を揃って行い、それぞれのペースで食事を楽しんでいる様子が見られた。行事の際はお弁当を用意し、御馳走気分を味わうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活管理表にて把握し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施子kで出来る方には声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表にて、排泄の記録しながら、リズムや健康状態の把握に努め必要に応じて支援している。	介助に入る時は「お手伝いさせて下さいね」、終わったら「ありがとうございました」と声をかけている。誘導によって紙おむつから布パンツに改善できたケースがある。また、利用者の状態に応じて乳酸菌飲料を摂取してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立ての工夫、状態に応じて乳酸飲料の摂取運動の取り入れ歩行の取り入れをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個々の希望に沿うよう努めている。	1日おきの入浴を午後に実施している。湯を随時張り替えたり足拭きのマットを利用者毎替えて、一人ひとりが気持ちのいい入浴になるよう支援している。入浴剤を数種類用意したり、変わり湯を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じた対応をしており特に夜間の睡眠は日々の生活に影響してくるので散歩、レクレーションなどを取り入れ支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の防止に努め、的確な服薬が出来るように支援すると共に、症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、たたみ 生け花植えなどその人の役割、楽しみごとなどが持てるように、支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。ドライブ、買い物、花見、イチゴ狩り大きな公園などへの、外出	肌で四季を感じてもらいたいと考え、初詣に始まり花見や行事を頻繁に行っている。外食を年1回恒例としていて、ほかにもフラワーパーク、いちご狩り、花鳥園へ出かけている。散歩コースの途中に桜並木や神社があり、お参りするのが日課になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	心身に影響が出るような方については、所持してもらっている。又外出時持って行かれる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応している。手紙も時にはお出しする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓、エアコン自然光が入るようにし、空気の入れ替えをしている。季節の物も部屋の中に取り入れるようにしている。	玄関先で思いにふける利用者の姿があり、思い思いの場でくつろいでいる様子が覗えた。季節の飾りつけを施し、楽しい雰囲気作りをしている。温度計と加湿器で温度調節を行い、殺菌、消毒を徹底した衛生管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳敷きがあり自由に利用できるようになっていて。席も時々変えたりしながら、2ユニット一緒になるようなアクティビティーも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、使い慣れた物、好みのものを近くにおき居心地良く生活できるようにしていただいている。	箆笥、花、鏡台、ぬいぐるみを持ち込み、好みの居室作りをしている。職員と一緒に製作した季節の飾りがあり、生活を楽しんでいる様子が伝わってくる。掃除も自分でできる利用者にはお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、補助棒、手すりの活用で、出来る事の範囲は広がっており 自立した生活ができるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街篠ヶ瀬	ユニット名	Bユニット
所在地	浜松市東区篠ヶ瀬町345		
自己評価作成日	平成23年11月20日	評価結果市町村受理日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277102188&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成23年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物が平屋作りになっていて安全に生活できる。食事もすべて手作りで温かい内に召し上がっていただける。笑顔の見えるケアをモットーにイベント等出来る限り皆さんで、外出している。季節を肌で、感じていただけるよう日々を過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

プランターや玄関先の花々が優しく咲き、職員も利用者も笑顔で訪問者を出迎えてくれる事業所である。毎朝、夕にリハビリ体操(早口言葉等)、嚥下体操、ラジオ体操を行っていて、その効果の表れか生き生きとした表情でユニットを行き来する利用者の姿や、職員と一緒に楽しそうに歌う様子が見られた。利用者にとってその瞬間が大切な時間であると考え、日々の暮らしや行事の中で輝いている笑顔を写真に収めアルバムにまとめている。その写真からも利用者との関わりが充実している様子が受け止められた。また四季を感じてもらうことを大切にしており、季節の花見や行事を行い、積極的に外出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔の見えるケア朝礼において社是等を唱和	入居時には特に積極的な関わりを持ち、利用者の表情が和らぎ笑顔がでるよう支援している。また職員も笑顔でいることが、利用者の笑顔につながると考えている。年度スローガンを掲げ、本部の自己評価制度にて振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事等において声かけし参加していただいている。散歩時など積極的に挨拶、声かけ	事業所開催の秋祭りは自治会の協力を得て150名余りの参加がある。地域では大正琴、歌、踊り、練りの披露をしてくれ、事業所もヨーヨーや綿菓子を用意し、小さな子どもに喜ばれている。自治会の祭りや餅つきにも招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時又は訪ねてこられた地域の皆さんには、相談又は地域資源の活用等お伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に施設の運営 状況については報告をし、又沢山の意見を頂いている。	運営推進会議の中でクリスマス会や食事会の時間を設け、地域から感想をもらっている。地域の情報は直に広報を届けてもらっており、日頃から関わりを持つことで災害時の協力についてもお願いしやすくなっている。	認知症の理解をより深めてもらうために地域へ向けた情報の発信を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、自治会長 民生委員地域包括支援センターに協力頂いて良い関係を築いている。	市の職員や包括は日程が合えば毎回参加してくれる。運営推進会議の案内や議事録を出向して渡しており、顔を合わせる機会があるので、相談しやすい関係になっている。行事と日程が重なる時は介護相談員にも参加して楽しんでもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議にて研修、掲示により喚起	外部研修に参加し、ユニットリーダー研修から職員へと落とし込んでいる。スピーチロックに関してはつい出てしまうこともあるので、朝礼時に管理者が喚起し意識を改めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて共有、朝礼時にも虐待の確認、認識の共有		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて共有、事例検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項、契約書の読み上げ、理解納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケア計画書を渡す時に意見交換し毎日のケアにとりくみしている。	秋祭りやクリスマス会への参加、運営推進会議へ持ち回りで出席してもらっている。職員は家族の不安を取り除くよう「安心して下さいね」と声をかけており、利用者の落ち着いた様子を見て安心した家族から感謝の手紙をもらうこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼等で意見交換している月/1の会議にて共有	毎朝の申し送りや月に1回の会議では職員からの提案や意見が出ている。特にレクは利用者も職員も楽しめるものが次々と取り入れられている。年に1回個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。希望休 有給の取得に努め残業などが無いように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	しょくば研修への参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣同業者との交流、内覧会等に積極的に言っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの読み込み又職員同士で確認を行い情報交換している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人家族が困っている事に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題点があれば日々朝礼時話し合いたの職員の意見も聞きながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にお花に水をやり散歩に行き、近所の方と話をしたりして共有の話題を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なじみの方家族に来て頂いたりして共に支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	里はいつでもウェルカムの状態でご利用者の周りの方に来ていただいたりしている。又今まで使用していたものを大事にしている。	どの家族も月に1回は訪問してくれる。その際時間が合えばおやつや食事を一緒にとることを勧めている。事業所が馴染みの家となっていて、出かけても「家に帰る」と言う利用者が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は常に職員の頭の中に入れており一人一人が孤立しないように支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に関係が終わっても意見交換できるように電話を頂いたり紹介頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の途中で希望など見つかれば記録に残しておく。不穏時には外出などして穏かに生活できる様努めている。	不穏時はなじみの職員が対応することで落ち着いたり、一瞬でも利用者の笑顔を引き出せるよう努めたりと、思いを汲み取るようにしている。気づきや利用者の発した言葉を経過記録に記載し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート フェースシートの確認会話の中で把握して朝礼などで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時の引き継ぎ、夕方の引き継ぎ時に共有し状態把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ家族の意見も聴きドクターにも相談をかけながらそのにあった介護計画を実践している。	計画作成担当者とケアマネがモニタリングとプラン作成を行っている。カンファレンスで出た職員の意見をとりまとめてプランに反映している。日々の変化にも迅速に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に記入し朝礼時に引き継ぎ情報の共有しながら実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に良い状態で居られるのか検討して他の部所とも連絡を取り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の施設とも連携を取り常にその方が今の状態でよいのか見当している。他に公的な公園町内の御宮の活用等もしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に適切な医療が受けられるよう、往診医、受診医と連絡を取り適切な支援をしている。	協力医は月2回の往診があり24時間対応のため、医療連携がスムーズであり利用者のほとんどが協力医に変更している。受診記録は個人ファイルに、薬の変化は連絡ノートに記載し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常にはないが必要に応じ往診医の指示のもと看護してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医をとうし医療機関とは情報交換や連絡にのっていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族医療機関と連絡を取りご利用者の状態を共有出来るようにしている。又重度化した時ターミナルへの相談はしている。	重度化した際は家族と今後について話し合っている。これまでに2件の看取り実績があり、経験が力量につながっている。研修も年1回行って、緊急連絡のロールプレイを行い、いざという時に落ち着いてできるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法は常に研修しており解りやすい位置に貼ってある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のもと又自治会の協力も得て防災、火災訓練を定期的に行っている。	「地域から事業所へ」「事業所から地域へ」、防災訓練の双方向参加は日程調整が難しく実現できていないが、地域へ呼びかけはしている。防災用具を各所に配置し、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー確保人格の尊重をし問題が起こった時には朝礼で確認対応している。	利用者のもとへ行き、目線を合わせて耳元で話している職員の姿に配慮が感じられた。また丁寧な言葉遣いや声の大きさへの気遣いもある。馴れ合いの関係とならないよう「お客様」であることを意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望表出が出来るようご利用者の話を傾聴し許す限り希望に沿うようにしている。自己決定出来る機会を沢山作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活出来るように希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる決定は自身でしていただきその人らしくお洒落や身だしなみが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく出来るよう時に意見を聞いたり試食していただいたりしている。	野菜を中心としたメニューでいろんな味が楽しめる内容になっている。「いただきます」を揃って行い、それぞれのペースで食事を楽しんでいる様子が見られた。行事の際はお弁当を用意し、御馳走気分を味わうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活管理表に記入し常に職員がチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後し一人一人にあったケアをし汚れにおいが生じないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表にて健康状態を把握し排泄リズムを確認しその人らしく生活できる様になっている。	介助に入る時は「お手伝いさせて下さいね」、終わったら「ありがとうございました」と声をかけている。誘導によって紙おむつから布パンツに改善できたケースがある。また、利用者の状態に応じて乳酸菌飲料を摂取してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物を取り入れた献立、ヨーグルト、乳酸菌の活用等しながら運動を毎日取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日やタイミングは常に柔軟に対応している。場合によっては清拭、足浴をしています。	1日おきの入浴を午後実施している。湯を随時張り替えたり足拭きのマットを利用者毎替えて、一人ひとりが気持ちのいい入浴になるよう支援している。入浴剤を数種類用意したり、変わり湯を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に睡眠がとれるよう日中、散歩アクティビティーなどを取り入れた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止に努め体調の変化を確認し的確な服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、洗濯干したみ生け花、花壇作り掃除など個々に役割が持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見て散歩、ドライブ 大手スーパー花見 イチゴ狩り四季を通じ外出支援しています。	肌で四季を感じてもらいたいと考え、初詣に始まり花見や行事を頻繁に行っている。外食を年1回恒例としていて、ほかにもフラワーパーク、いちご狩り、花鳥園へ出かけている。散歩コースの途中に桜並木や神社があり、お参りするのが日課になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不穩になる人に限り所持、外出時所持知る人もあり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかかってきたりかけたりはたまにあり。手紙を頂いたり、出したりすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物なじみの物を入れ季節が感じられるような空間作りをしている。	玄関先で思いにふける利用者の姿があり、思い思いの場でくつろいでいる様子が覗えた。季節の飾りつけを施し、楽しい雰囲気作りをしている。温度計と加湿器で温度調節を行い、殺菌、消毒を徹底した衛生管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室空間作り和室での語らいなどを大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を大事にし季節家族の感じられるようなものを大事にしている。	畳を入れたり筆筒、時計を持ち込んでいる。職員と一緒に製作した季節の飾りがあり、生活を楽しんでいる様子が伝わってくる。掃除も自分でできる利用者にはお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全な環境作りに配慮しケがのないように努めている。		